

設楽発掘通信

No.25
平成28年
12月号

西地・東地遺跡地元説明会を開催しました。

十月から開始しました、大名倉地区の西地・東地遺跡の地元説明会を、十一月十九日に開催しました。無事開催できましたこと、関係の方々にお礼申し上げます。

当日は、あいにく降雨が強く、天候が良くなかったにも関わらず、十七名の方が見学にお見えになりました。現場内に水がたまってしまったこともあり、現地をすべてご覧頂くことができず、残念ながら、ごく一部のみのご紹介にとどまりました。

しかしながら、現在調査中の遺構などの説明に、ご来跡の皆様への熱心に聞き入る様子を拝見して、皆様のご理解あつての埋蔵文化財調査であることを、改めて感じた次第です。今年度の設楽ダム関連調査も、終わりに近づいてきました。これまでの調査成果は、三月初めの成果報告会でご報告したいと考えております。成果報告会の詳しいご案内は次号でお知らせする予定です。

(愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁)



西地・東地遺跡の調査は、設楽ダム建設事業に伴うもので、遺跡の中央340㎡を対象に、今年10月から行なわれています。遺跡は、豊川(寒狭川)最上流の横斜地と河岸段丘上に立地し、大名倉地区の北端に位置しています。今年度の調査対象地区は、2014年に調査したB区・C区間の、町道部分を中心とした場所で、標高は455m前後です。

今回の調査で見つかった遺構	おおよその年代
○縄文時代中期後半～後期初頭 (今から5000～4400年前)	大型土坑(貯蔵穴の可能性のあるものも含む) 10基ほど 柱穴(竪穴建物跡に伴うものなど)
○戦国期～近世	竪穴状遺構 2 (鉄滓出土・作業場か) 焼土を含む土坑 1 集石土坑あるいは集石遺構 4 柱穴

今回の調査区は、縄文時代中期後半から後期の竪穴建物跡 5 棟が見つかった148区の南側低部位に当たります。縄文時代の遺構では、調査区中央北端で埋蔵のある竪穴建物跡に伴う柱穴なども見つかりましたが、その南側では土坑が集中して見つかっており、竪穴建物跡脇の貯蔵あるいは遺物の腐棄が行なわれた場であったと考えられます。磨石・台石・石核が入られた土坑は、これらとはやや離れた場所で見つかっています。縄文時代の出土遺物では、縄文土器(早期後半・前期・中期後半・後期初頭)と、石器【石鏃・石錐・打製石斧・磨製石斧・剥片石核類・磨石・磨石類・台石】を、現在までのところ確認しています。



写真2 西地・東地遺跡地元説明会資料
愛知県埋蔵文化財センター HP からダウンロードできます。

写真1 上：西地・東地遺跡 現場での説明の様子
下：西地・東地遺跡 出土遺物の展示・解説の様子

滝瀬遺跡の発掘調査

滝瀬遺跡の調査は、十一月中旬に終了しました。最後に調査を行ったBd区は、後世の削平が激しく、検出できた遺構は少数でした(写真3)。ただし、残存状態は良くないものの重要な遺構がいくつかありました。

一つ目は、調査区北部で検出した落ち込みです。大きさは約三×約二・五メートル、深さは約五センチと浅く、上面がほとんど失われていると考えられます。中央部分には炭化物が見られ、炉の痕跡の可能性がります。地形的には傾斜が比較的緩まる場所、段丘の縁辺部分に位置します。詳細な性格は不明ですが、中央に炉を持つ竪穴建物跡の可能性もります。

二つ目は、埋設された土器が出土しました。土器は劣化が激しく、判別が困難な状態です。周囲には赤変している部分が見られ、被熱している可能性がります。埋喪もしくは土器埋設炉跡の可能性があり、同様の遺構はA区でも見つかっています。前述の落ち込みから南に約10mの場所に位置しており、周囲に居住区が広がっていた可能性もります。

また、包含層(遺構面の上の堆積)を中心に一定量の遺物も出土しました。中でも打製石斧は多量に見つかり、Bd区だけで数十点出土しています。これは今回の調査全体にもいえる特徴で、特に山側から多く出土しています。

今年度の調査では、多くの遺構、遺物が見つかりました。その中には貴重なものもいくつか含まれており、有意義な調査だったと思います。

(安西工業株式会社 岩瀬大輔)

大栗遺跡の発掘調査

大栗遺跡はABCの三区に分けて調査を行い、十一月中旬にA区(約一二〇〇平方メートル)の調査が終了しました(写真4)。A区は北から南へ低く傾斜する地形で、南北の標高差は約六メートルにもなりません。調査区では、一〇〇基程の遺構が見つかりました。遺構には、土坑、柱穴、鍛冶炉のほか、内側が真っ赤に焼けた土坑や石を長方形に緻密に組み合わせた構造の遺構、円形の竪穴建物状の遺構などもありました。また、傾斜地で多くの遺構が確認されましたが、この中には東西方向に等間隔で列を成すものが二列みつかりました。

た。このうちの一例は、列を成す一つ一つの柱穴の径が約五十センチもあり、太い柱穴の痕跡も明瞭に残っていることから、傾斜地を利用する為に造られた強固な構造物があったことが伺えました。調査地で出土した遺物は、陶磁器、土師器、縄文土器と石器など、近代、縄文時代の多様なものが出土しました。B・C区は十二月中の終了を目指して調査を行っています。一昨年に行われた範囲確認調査で、遺物が多く出土した位置にあたる為、当地での人々の痕跡が、更に少しずつ明らかになっていくと思います。

(安西工業株式会社 市田英介)

西地・東地遺跡の発掘調査

西地・東地遺跡の発掘調査が十二月初旬に終了しました。今回の発掘調査では中世以降の竪穴建物状遺構や集石遺構、縄文時代の土坑などを確認しました。遺物は、縄文時代中期から後期(今から五千年〜四千年前頃)の土器や石鏃、中世の陶磁器や銅銭などが出土しました。写真5は縄文時代の磨製石斧です。遺構のご説明は次号でいたします。今後は出土した遺物の水洗、分類や写真、図面の整理作業を行います。

(安西工業株式会社 坂口尚人)



写真5 西地・東地遺跡 磨製石斧出土状況

範囲確認調査

大名倉地区の大名倉遺跡・胡桃窪遺跡、川向地区の大空前遺跡・上ヲロウ遺跡、下ヲロウ遺跡・川向近沢遺跡・石原遺跡・下延坂遺跡、小松地区のマサノ沢遺跡、八橋地区の永江沢遺跡・根道外遺跡・滝瀬遺跡と設楽町内各地区で行ってきた範囲確認調査も十二月中旬で滝瀬遺跡の調査を最後に終了します。

(安西工業株式会社 入江剛弘)



写真3 滝瀬遺跡 Bd区全景(上が北)



写真4 大栗遺跡 A区全景(上が南西)

縄文時代の貯蔵穴

遺跡の発掘調査において発見される貯蔵穴は、縄文時代の初めから用いられ、日本における食料を貯蔵する生活習慣を示す痕跡として重要な遺構であります。設楽地区の発掘調査においても、平成二十六年年度の西地・東地遺跡、昨年度の笹平遺跡（写真6）、滝瀬遺跡において発見されており、今年度の滝瀬遺跡の調査においても一基みつかりました（写真7上）。

縄文時代の貯蔵穴の形は、平面形が円形で断面形は口が狭く、底に近い部分がやや広くなる袋状になっていくことが大きな特徴で、考古学用語ではこの特徴から「袋状土坑」と呼ばれています。穴の大きさは口の径が〇・五メートル〜一メートル程、深さも〇・五メートル〜一メートル程にもなる比較的大きなものです。

ではこれらの袋状土坑がどうして貯蔵用の穴といえるのでしょうか。滝瀬遺跡や笹平遺跡の袋状土坑においても、ドングリ類の黒色化したものが少量見つかっているものがありますが、豊田市にある寺部遺跡のように遺跡の谷部にあって湧水を利用した袋状土坑では、多量のドングリ類や少量のトチ、クリなどの堅果が見つかっているものがあり、当時の食糧用貯蔵穴として使われたものと考えられています。

設楽地区において見つかった貯蔵穴は、全て堅穴建物跡の近くに発見されているのが特徴で、集落内に貯蔵するタイプのもので（写真7下）。これらの遺構は、設楽の縄文時代の人々が集落の周りにある山野で、秋の実りをせつせと集めて冬に備えるためのものであったと思われます。

（愛知県埋蔵文化財センター

陰山誠一）



写真6 小松地区 笹平遺跡 貯蔵穴 土層断面



写真7 上：八橋地区 滝瀬遺跡 貯蔵穴 土層断面
下：貯蔵穴の位置（白矢印）

設楽発掘通信

No.25 平成28年12月号

編集・発行

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567)674161【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力

安西工業株式会社